

1 観光消費額 (資料) 令和元年 京都観光総合調査

- ・令和元年の観光消費額は**1兆2,367億円**
- ・**京都全市民の年間消費支出の約55% (京都市民の約81.3万人分)**に相当



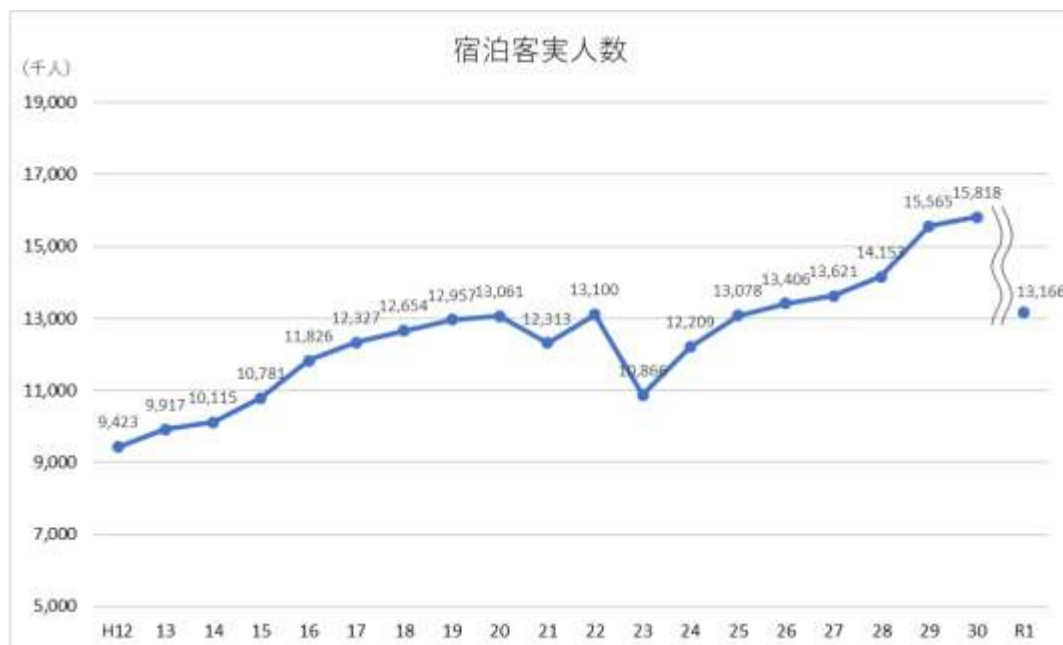
令和元年

- ・日本人観光消費額単価 日帰り：11,054円 宿泊：54,970円
- ・外国人観光消費額単価 日帰り：19,766円 宿泊：60,991円

※平成23年及び24年は調査手法の変更により観光客数を推計していないことから、観光消費額の総額を推計できない。
 ※調査手法の変更により、令和元年の数値は平成30年までの数値と時系列による単純比較はできない。

2 宿泊客数 (資料) 令和元年 京都観光総合調査

- ・令和元年の宿泊客数(実人数)は1,317万人



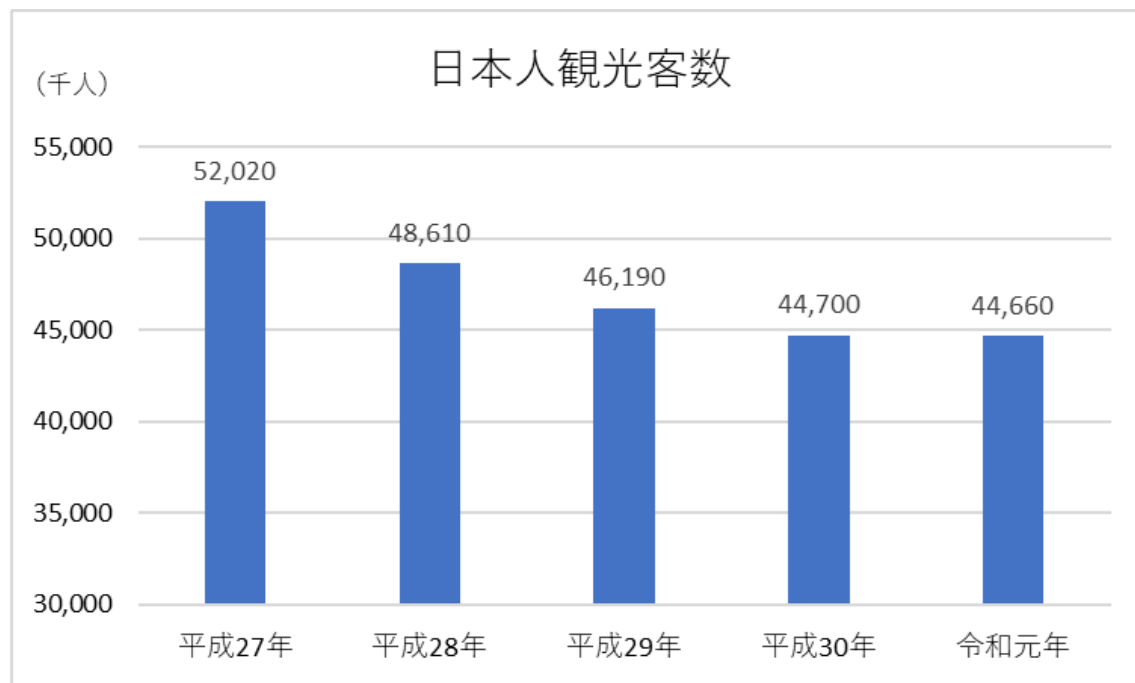
※調査手法の変更により、令和元年の数値は平成30年までの数値と時系列による単純比較はできない。

最新データから見る京都観光の現状(観光客)

3 日本人観光客数

(資料) 令和元年 京都観光総合調査

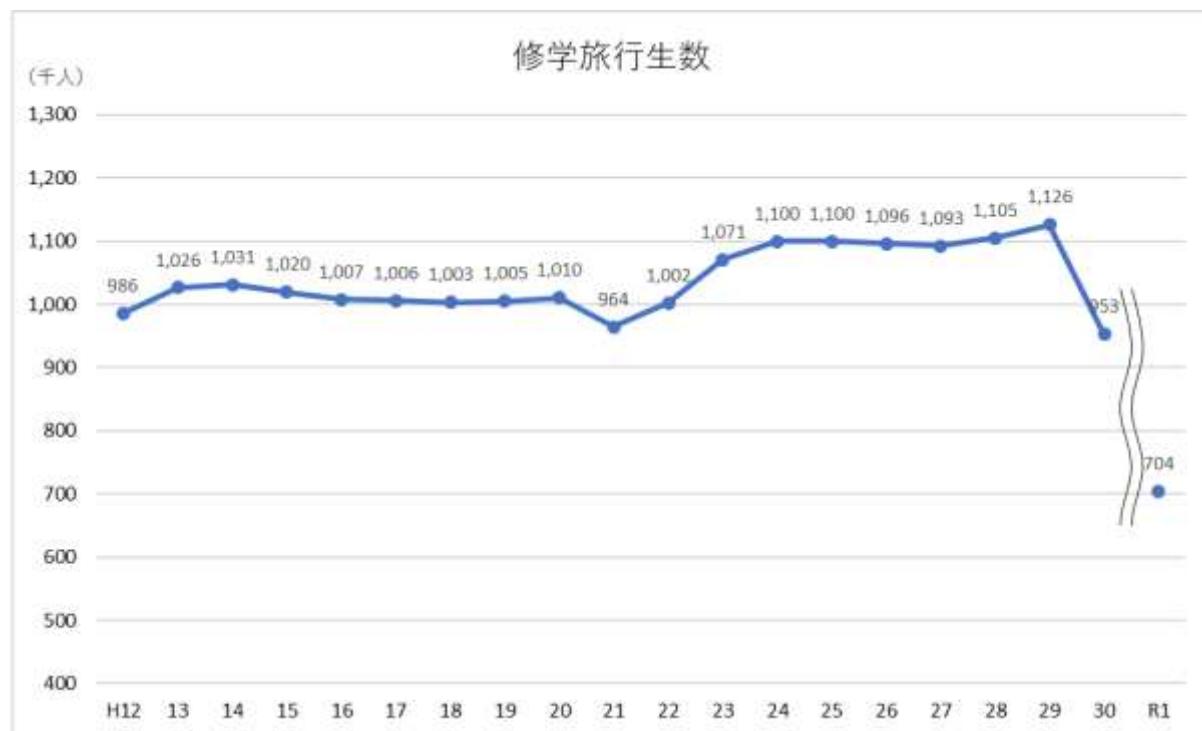
- ・ 令和元年の日本人観光客数は、**4,466万人**



4 修学旅行生数

(資料) 令和元年 京都観光総合調査

- ・ 令和元年の修学旅行客数（実人数）は、70万4,000人



※調査手法の変更により、令和元年の数値は平成30年までの数値と時系列による単純比較はできない。

最新データから見る京都観光の現状(観光客)

5 日本人観光客 満足度 (資料) 令和元年 京都観光総合調査

(1) 京都観光の総合満足度 (日本人) ※令和元年

- ・「大変満足」又は「満足」と回答された方が7割を超え, 「やや満足」を含めると9割超の観光客が満足と回答

| 項目 | | 大変満足 | 満足 | やや満足 | 大変満足 ～ やや満足 | どちらとも いえない | やや不満 | 不満 | 大変不満 | 平均 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------------------|---------------|------|------|------|-----|
| | | 7 | 6 | 5 | | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 総合満足度 (日本人) | 令和元年 | 22.6% | 49.9% | 18.8% | 91.3% | 7.1% | 1.2% | 0.3% | 0.1% | 5.8 |
| | 平成30年 | 23.4% | 46.9% | 20.0% | 90.3% | 7.7% | 1.4% | 0.4% | 0.2% | 5.8 |
| | 平成29年 | 23.5% | 48.9% | 18.5% | 90.9% | 7.0% | 1.4% | 0.5% | 0.2% | 5.8 |

(2) 京都観光の残念度 (日本人) ※令和元年

- ・「残念なことがあったか」という質問を行ったところ, 残念なことがあったという回答が平成30年より減少

| 項目 | | 残念なことが あった | 残念なことが なかった | 無回答 | 合計 |
|--------------|-------|---------------|----------------|------|--------|
| 残念度 (日本人) | 令和元年 | 44.7% | 48.7% | 6.6% | 100.0% |
| | 平成30年 | 46.5% | 46.5% | 7.0% | 100.0% |
| | 平成29年 | 46.0% | 47.1% | 6.9% | 100.0% |

- ・残念なこととして, 「混雑(20.2%)」「マナー(13.8%)」が上位
※残念なことがあったと回答された方を100%とした際の割合

6 外国人観光客 満足度 (資料) 令和元年 京都観光総合調査

(1) 京都観光の総合満足度 (外国人) ※令和元年

- ・「大変満足」と「満足」で約9割を超え, 「やや満足」を含めると約98%が京都観光に満足と回答

| 項目 | | 大変満足 | 満足 | やや満足 | 大変満足 ～ やや満足 | どちらとも いえない | やや不満 | 不満 | 大変不満 | 平均 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------------------|---------------|------|------|------|-----|
| | | 7 | 6 | 5 | | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 総合満足度 (外国人) | 令和元年 | 40.9% | 50.5% | 6.2% | 97.6% | 2.1% | 0.2% | 0.0% | 0.1% | 6.3 |
| | 平成30年 | 43.4% | 45.1% | 9.1% | 97.6% | 1.9% | 0.2% | 0.1% | 0.2% | 6.3 |
| | 平成29年 | 39.9% | 46.8% | 10.0% | 96.7% | 2.9% | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 6.2 |

(2) 京都観光の残念度 (外国人) ※令和元年

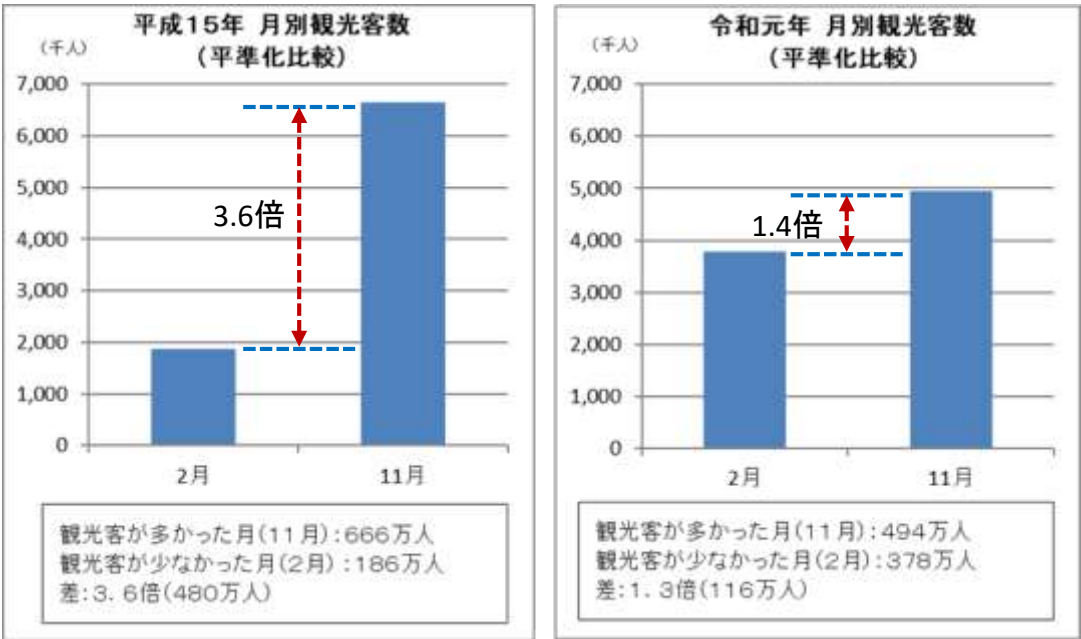
- ・「残念なことがあったか」という質問を行ったところ, 約8割の方がなかったと回答

| 項目 | | あった | なかった | 無回答 | 合計 |
|--------------|-------|-------|-------|------|--------|
| 残念度 (外国人) | 令和元年 | 16.3% | 78.4% | 5.3% | 100.0% |
| | 平成30年 | 16.7% | 78.5% | 4.8% | 100.0% |
| | 平成29年 | 15.6% | 79.7% | 4.7% | 100.0% |

- ・残念なこととして, 「公共交通(16.9%)」「時間が足りなかった(16.5%)」が上位
※残念なことがあったと回答された方を100%とした際の割合

8 月別観光客の繁閑差（最繁月・最閑月比較）

- ・ 月別観光客数（多い月）も666万人から494万人に減少
- ・ 平成15年に3.6倍あった繁閑差が，令和元年には1.3倍に縮小



(資料) 京都観光総合調査（令和元年）
京都市観光調査年報（平成15年）

最新データから見る京都観光の現状(観光客)

9 訪問地（主要観光地）

(1) 日本人観光客

(%)

| 日本人 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|
| 清水・祇園周辺 | 34.8 | 40.9 | 51.0 | 51.3 | 56.4 | 47.7 | 53.9 |
| 嵯峨嵐山周辺 | 38.3 | 43.6 | 48.8 | 26.8 | 26.5 | 22.7 | 23.2 |
| 伏見周辺 | 7.6 | 5.9 | 11.3 | 15.3 | 15.8 | 15.0 | 14.8 |
| 京都駅周辺 | 37.0 | 48.7 | 44.6 | 51.7 | 53.0 | 50.4 | 46.1 |

(2) 外国人観光客

(%)

| 外国人 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| 清水寺 | 61.0 | 64.4 | 65.0 | 67.7 | 65.2 | 62.7 | 66.6 |
| 嵐山・嵯峨野 | 27.9 | 32.5 | 33.0 | 31.2 | 36.8 | 32.1 | 29.7 |
| 伏見稲荷大社 | 26.4 | 35.8 | 41.4 | 43.3 | 48.0 | 50.8 | 52.1 |
| 京都駅周辺 | — | — | 39.4 | 35.8 | 30.2 | 22.2 | 14.8 |

(資料) 京都観光総合調査（平成25年～令和元年）

10 訪問地（周辺観光地）

◆ 日本人観光客

(%)

| 日本人 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|---------|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 伏見周辺 | 7.6 | 5.9 | 11.3 | 15.3 | 15.8 | 15.0 | 14.8 |
| 大原・八瀬周辺 | 1.4 | 2.3 | 4.3 | 3.1 | 3.2 | 2.3 | 2.1 |
| 高雄周辺 | 4.7 | 4.7 | 3.3 | 1.6 | 1.3 | 1.4 | 1.3 |
| 山科周辺 | 7.3 | 3.4 | 2.7 | 2.2 | 3.3 | 2.5 | 2.2 |
| 松尾・桂周辺 | 3.2 | 4.7 | 4.7 | 4.2 | 3.6 | 3.5 | 4.3 |
| 西陣・北野周辺 | 2.9 | 5.5 | 8.6 | 6.9 | 8.0 | 9.0 | 8.0 |

(資料) 京都観光総合調査（平成25年～令和元年）

11 国内客の訪問頻度

(資料) 令和元年度 京都市訪問意向調査

・京都への旅行経験者のうち、59.4%が「訪問頻度が減った」と回答しており、「増えた」と回答した人は4.1%にとどまっている。



・京都への再訪希望がある人は、全体平均と比較して、「ゆっくり観光できないイメージ」や「宿泊価格の高騰」、「宿泊予約が取りにくい」が上回っており、再訪希望がない人は、「他の観光地に行くようになった」や「京都は行きつくした」が上回っている。

| 訪問頻度の減少理由 | 平均 | 再訪希望あり | 再訪希望なし |
|-----------------------------|-------|--------|--------|
| 外国人観光客が多く、ゆっくり観光できないイメージがある | 36.8% | 37.9% | 35.6% |
| 他の観光地に行くようになった | 23.6% | 21.0% | 26.6% |
| 宿泊施設の価格が高騰している | 12.3% | 14.5% | 9.9% |
| 宿泊施設の予約が取りにくい | 9.6% | 13.3% | 5.4% |
| 京都の観光地は行きつくした | 5.7% | 3.2% | 8.6% |

12 欧米豪の市場における認識

(資料) 令和元年度 京都市訪問意向調査

・キーワードから連想する観光地のイメージについて、「神聖で哲学的な体験ができる」、「歴史や遺産」など、日本から遠い欧米豪と比較的近距离のアジアでは、京都と東京の回答率が逆転しており、欧米豪ではまだまだ「日本＝東京」のイメージが強い可能性がある。

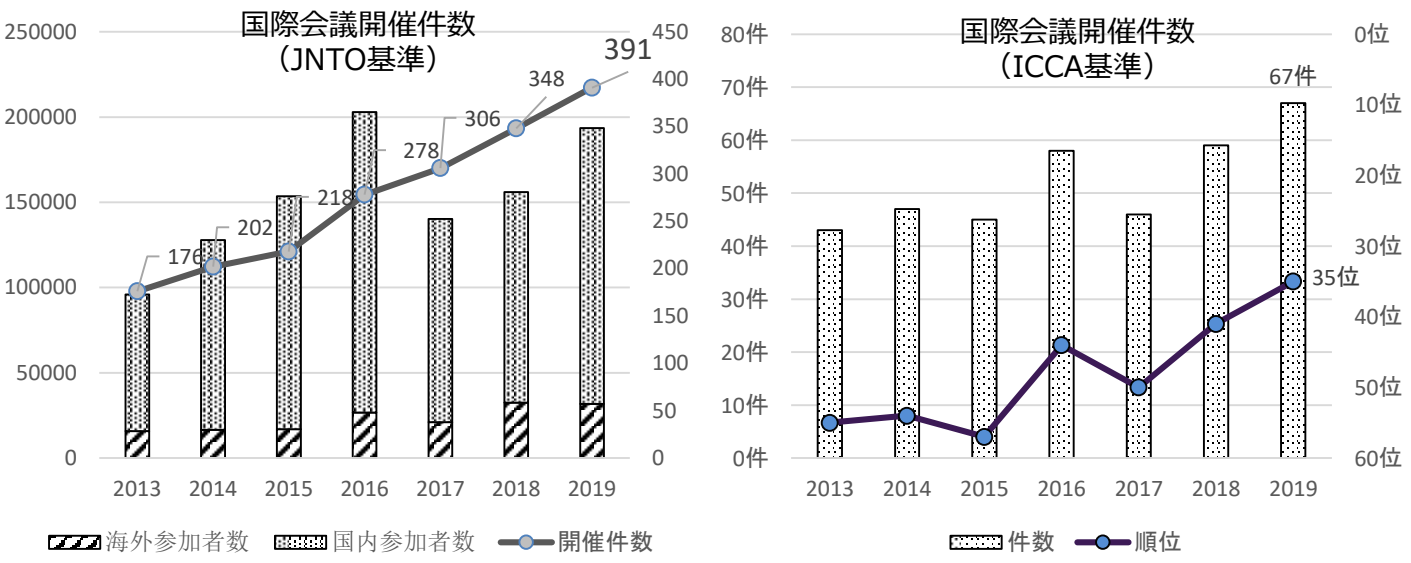
・一方、「多様な楽しみ方ができる」や「上質なサービス」、「喫茶、スイーツ、ベーカリーが充実している」など、欧米豪とアジアの両方で京都と東京の回答率に大きな差があり、今まで以上に京都の多様な魅力や食の情報発信が必要である。

| 観光地のイメージ | 京 都 | | 東 京 | | 差 (ポイント) | |
|----------------------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|
| | 欧米豪平均 | アジア平均 | 欧米豪平均 | アジア平均 | 欧米豪 | アジア |
| 神聖で哲学的な体験ができる | 29.0% | 26.3% | 39.3% | 19.3% | ▲10.3 | 7.0 |
| 職人の技にふれる | 29.6% | 32.1% | 39.8% | 25.9% | ▲10.2 | 6.2 |
| 世界の歴史、遺産の大切さを学ぶ | 32.3% | 38.5% | 58.2% | 34.0% | ▲25.9 | 4.5 |
| 民族的な調度品を買う | 31.5% | 31.9% | 43.1% | 28.0% | ▲11.6 | 3.9 |
| 洗練された文化やライフスタイルがある | 30.7% | 40.8% | 56.2% | 38.6% | ▲25.5 | 2.2 |
| ローカルフードがある | 40.1% | 37.3% | 59.2% | 49.2% | ▲19.1 | ▲11.9 |
| 喫茶、スイーツ、ベーカリーが充実している | 23.4% | 28.7% | 47.3% | 46.8% | ▲23.9 | ▲18.1 |
| すべてが上質なサービスである | 26.7% | 33.2% | 54.0% | 53.1% | ▲27.3 | ▲19.9 |
| 多様な楽しみ方ができる | 30.8% | 23.9% | 53.2% | 45.4% | ▲22.4 | ▲21.5 |

最新データから見る京都観光の現状(MICE)

1 国際会議の開催件数

- ・2019年の開催件数は391件（暫定）と6年連続過去最高値を更新（JNTO基準）
- ・また、開催都市の世界ランキングにおいて、京都市MICE戦略2020に掲げる世界35位の目標を達成（ICCA基準）



2 MICEの実態調査（主催者・参加者調査）

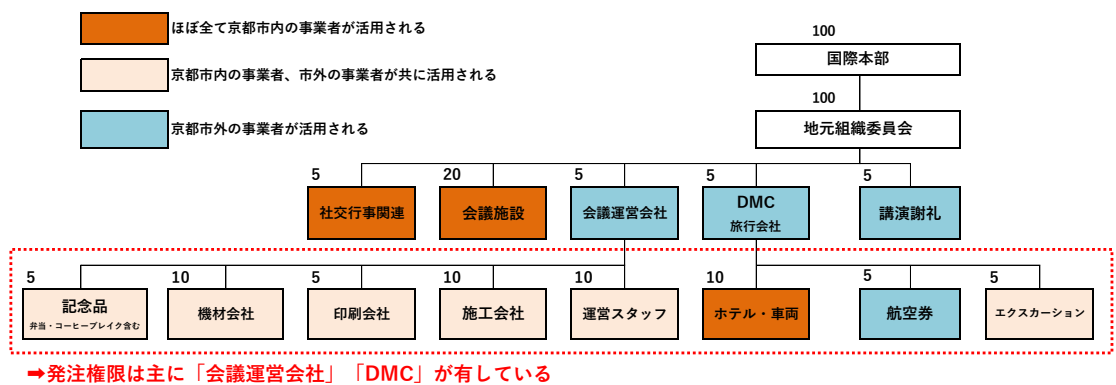
(1) 国際会議の経済効果

- ・外国人参加者の宿泊費・日数、滞在費、総消費額のいずれも日本人参加者を上回っており、また、一般の外国人観光客の総消費額も上回っている。

| | 平均宿泊日数 | 平均滞在日数 | 市内宿泊費 | | 市内滞在費 | | 市内消費額 |
|-----|--------|--------|---------|----------|--------|---------|--------------------|
| | | | 1泊当たり | 総宿泊費 | 1泊当たり | 総滞在費 | 総消費額 |
| 全体 | 5.58泊 | 6.58日 | 14,791円 | 82,532円 | 8,641円 | 56,861円 | 139,392円 |
| 日本人 | 2.35泊 | 3.35日 | 10,974円 | 25,789円 | 7,100円 | 23,787円 | 49,575円 (20,931円) |
| 外国人 | 7.19泊 | 8.19日 | 16,514円 | 118,734円 | 8,732円 | 71,516円 | 190,250円 (46,294円) |

- ※ () 内数値は一般観光客の数値（京都観光総合調査から）
- ※ 滞在費…会議参加費と宿泊費を除く、飲食費やおみやげ代等

- ・主催者の発注に係る市内事業者平均活用率は市内：(市内＋市外)：市外＝35：45：20と一部が市外に発注されている。



最新データから見る京都観光の現状(MICE)

- ・参加者のレジャー泊（会議目的以外の宿泊）の実施割合は、外国人が日本人の6倍以上であり、レジャー泊をする外国人の総消費額は、しない外国人と比べて約1.4倍である。
- ・参加者の6割弱が同伴者を帯同している。同伴割合は外国人が日本人を上回り、平均同伴人数も2倍超である。
- ・外国人参加者の6割超が初来訪者であり、多くが再来訪意向を示している。

| | レジャー泊者数 (実施割合) | 平均宿泊日数 | 内訳 | |
|--------|-------------------|--------|-------|-------|
| | | | 会議目的泊 | レジャー泊 |
| 全体 | 273人 (27.7%) | 5.58泊 | 4.31泊 | 1.27泊 |
| 外国人参加者 | 253人 (38.6%) | 7.19泊 | 5.35泊 | 1.84泊 |
| 日本人参加者 | 20人 (6.1%) | 2.35泊 | 2.23泊 | 0.12泊 |

| | | レジャー泊あり | レジャー泊なし |
|-------|-----|----------|----------|
| | 外国人 | ¥225,547 | ¥166,109 |
| 総消費額 | 日本人 | ¥78,738 | ¥47,136 |
| 延べ宿泊数 | 外国人 | 8.7泊 | 6.2泊 |
| | 日本人 | 4.4泊 | 2.2泊 |

(2) 地域貢献効果（市民の知見向上、伝統産業振興等）

- ・約半数の会議で市民向けプログラムが開催されているが、一部で、集客や予算、広報等が開催に向けての課題となっている。
- ・伝統産業製品や京都らしい演出への満足度は、主催者・参加者共に高いが、一部で活用されていない、又は知られていない事例や、ラインナップの少なさへの不満等も見受けられる。

(3) 開催地決定要因

- ・開催地決定に際しては、地元組織委員会主導型が多いものの、国際本部や専門会社主導型も増えつつある。
- ・開催地決定要因は、「京都ブランド・観光的魅力」「ビューローの支援」「研究者の層の厚さ」等が多い。
- ・主導する組織のタイプやキーパーソンによって、決定要因は異なる。

(4) 国際会議都市・京都の強みと弱み

- ・会議施設や宿泊施設の充実等のハード面、京都らしい社交行事やエクスカージョン等のソフト面とも、満足度は概ね高く、京都での再開催意向も強いが、一部の施設やユニークベニユーのキャパシティ、サービス・食事の質等への不満が見受けられる。
- ・「京都開催」の成果・利点として、「京都ブランド」による参加者数の増加や、参加者満足度の向上のほか、参加登録費・スポンサー収入増による収益黒字化、京都の歴史や文化を踏まえた宣言の合意等が挙げられている。
- ・会議内容、会議施設とも約8割が満足しており、特に外国人参加者の評価が高い。
- ・国際会議都市として京都に必要なものとして、「多言語対応」「環境への配慮」「施設（規模、アクセス、Wi-Fi環境、老朽化等）」が挙げられたほか、飲食やインフラ等への要望もある。

(5) SDGs 達成への意識

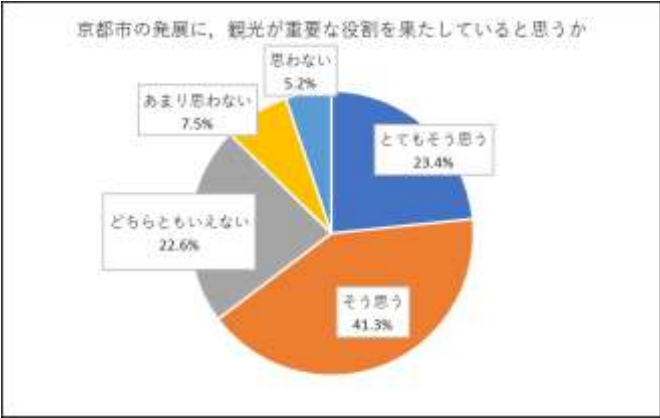
- ・主催者における環境配慮への意識は非常に高いが、予算や知識不足を理由に、実施できていない事例もある。
- ・また、参加者からも環境配慮のほか、バリアフリーや多様な文化への対応等、SDGsに資する取組への要望が多く見られる。
- ・オフシーズンにおける開催に向けては、財政的支援や、時期限定の特別イベント等について、主催者からの要望がある。

最新データから見る京都観光の現状(市民)

1 観光の重要度

(資料) 令和元年度 市政総合アンケート「京都観光について」

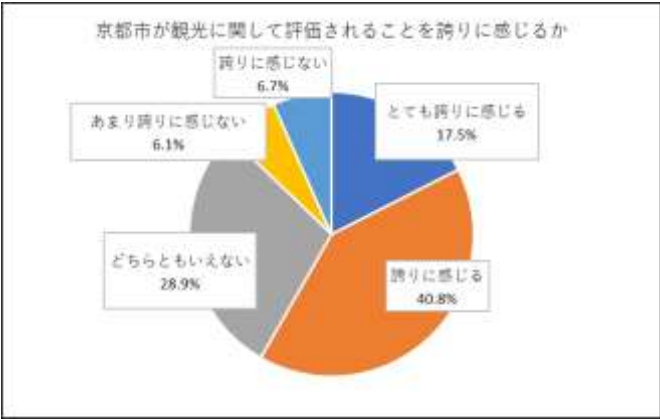
「京都市の発展に、観光が重要な役割を果たしていると思うか」の設問に対して、6割以上の方が肯定的な意見を回答



2 観光都市としての京都市に対する誇り

(資料) 令和元年度 市政総合アンケート「京都観光について」

「京都市が観光に関して評価されることを誇りに感じるか」の設問に対して、6割近くの方が肯定的な意見を回答



3 京都観光を取り巻く課題

(資料) 令和元年度 市政総合アンケート「京都観光について」

観光地や公共交通機関等の混雑では、自身が経験されている割合が高く、宿泊施設の急増に伴う影響やマナー違反では、友人の話やテレビ等のメディアで目にする機会が比較的高い傾向

| | 自分がよく経験する | ときどき経験する | 親類・友人が経験 | テレビ・新聞等で目にする | 影響はない | わからない |
|-------------|-----------|----------|----------|--------------|-------|-------|
| 給与等への好影響 | 4.4% | 7.8% | 6.9% | 26.5% | 49.9% | 11.6% |
| 買物環境向上 | 3.2% | 12.7% | 5.3% | 21.4% | 46.2% | 16.4% |
| 生活環境の向上 | 3.3% | 13.7% | 4.0% | 20.7% | 41.9% | 20.6% |
| 交通機関等の発達 | 5.4% | 17.8% | 4.0% | 17.1% | 39.2% | 21.0% |
| 交友関係の拡大 | 2.4% | 8.7% | 5.3% | 13.5% | 56.1% | 17.7% |
| 混雑（観光地等） | 35.0% | 30.9% | 8.6% | 17.4% | 12.5% | 8.1% |
| 混雑（公共交通機関） | 38.6% | 32.9% | 10.6% | 14.8% | 10.8% | 7.2% |
| 道路渋滞 | 32.8% | 32.6% | 9.1% | 15.1% | 12.1% | 11.1% |
| 宿泊施設急増に伴う影響 | 21.2% | 23.4% | 9.1% | 24.3% | 20.6% | 12.8% |
| 観光客のマナー違反 | 26.5% | 31.1% | 10.4% | 25.3% | 12.3% | 10.1% |

最新データから見る京都観光の現状(観光資源, 観光関連インフラ等)

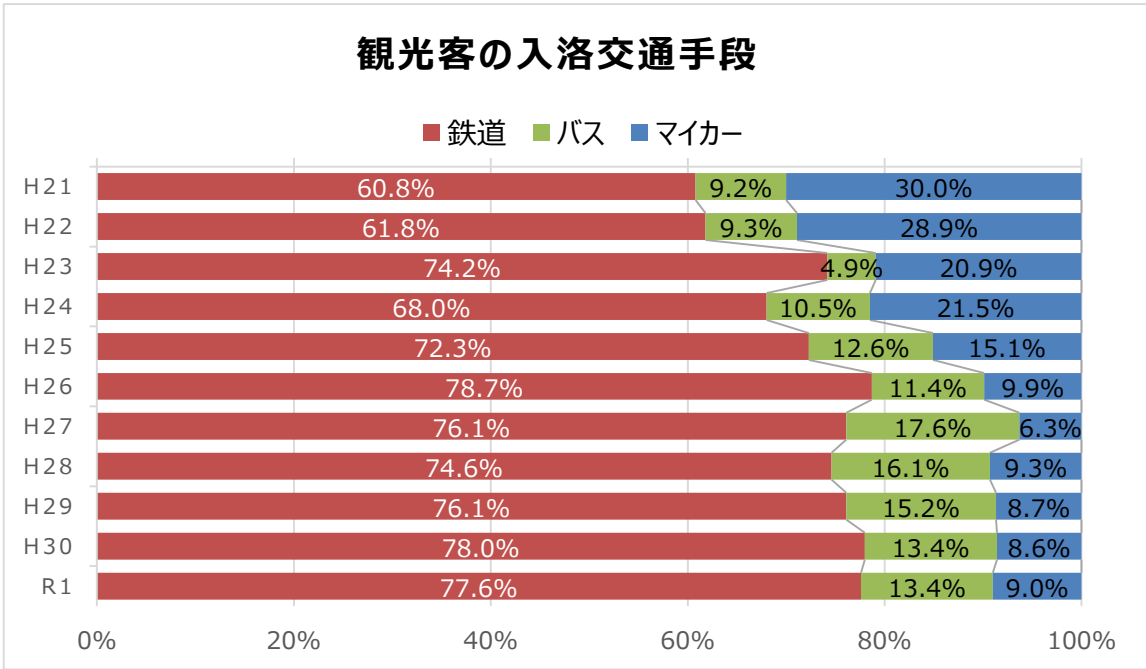
1 旅館業許可施設・客室数

・平成28年の宿泊施設拡充・誘致方針策定時の約3万室から令和元年3月末時点で、約5万3千室に増加しており、現在計画されている宿泊施設も含めると、基本的には施設数としては満たされている。

| 年度 | 旅館・ホテル | | 簡易宿所 | | | | 合 計 | | |
|-----|--------|--------|-------|---------|--------|---------|-------|--------|--------|
| | 総施設数 | 新規許可件数 | 総施設数 | 京町家(再掲) | 新規許可件数 | | 総施設数 | 総客室数 | 新規許可件数 |
| | | | | | 総数 | 京町家(再掲) | | | |
| H26 | 542 | 27 | 460 | 40 | 79 | 25 | 1,002 | 29,189 | 106 |
| H27 | 532 | 9 | 696 | 145 | 246 | 106 | 1,228 | 29,786 | 255 |
| H28 | 550 | 25 | 1,493 | 370 | 813 | 231 | 2,043 | 33,887 | 838 |
| H29 | 575 | 38 | 2,291 | 543 | 871 | 181 | 2,866 | 38,419 | 909 |
| H30 | 624 | 73 | 2,990 | 684 | 846 | 171 | 3,614 | 46,147 | 919 |
| R1 | 656 | 61 | 3,337 | 899 | 602 | 166 | 3,993 | 53,471 | 663 |

2 入洛利用交通機関割合（日本人）

・車（マイカー）の比率は、平成21年の30%から20ポイント以上減少
・一方、公共交通機関（電車・バス）の比率は、増加傾向にあり、平成26年以降、90%を超えている。



(資料) 京都観光総合調査（平成23年～令和元年）
京都市観光調査年報（平成21年・22年）

3 京町家の減失等の状況 (資料) 平成28年度「京町家まちづくり調査に係る追跡調査」

- ・平成20・21年に行った京町家まちづくり調査では、京町家の残存軒数は47,735 軒、空き家率は 10.5 %で、平成 28 年に行った追跡調査によると、京町家の残存軒数は 40,146 軒に減少、空き家率は 14.5 %に上昇。
- ・この7年間で 5,602 軒（調査不能を除く。）が滅失しており、年間平均滅失率は 1. 7 と、依然として滅失傾向に歯止めがかかっていない。

